



小野 賢二 Ono Kenji
東北支所

マングローブは熱帯や亜熱帯地域の汽水域（海水と淡水が混じり合う環境）に生育する生態系です。日本では南西諸島から種子島に自然分布していますが、九州や本州にも人の手によって植栽されたマングローブがあります。

世界には110樹種以上のマングローブが分布し、そのうち日本には、オヒルギ、メヒルギ、ヤエヤマヒルギ、マヤブシキ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキ、ニツバヤシ等が分布しています。マングローブは海水や汽水に浸る環境に生息するので、根の酸素不足を回避するために特殊な形態を有した、さまざまな根系構造（呼吸根）をもっています。マングローブの生育地は地盤高や潮汐環境によって規定されており、一般には波浪の影響が弱い、平均潮位から最高高潮位までの干潟が該当します。

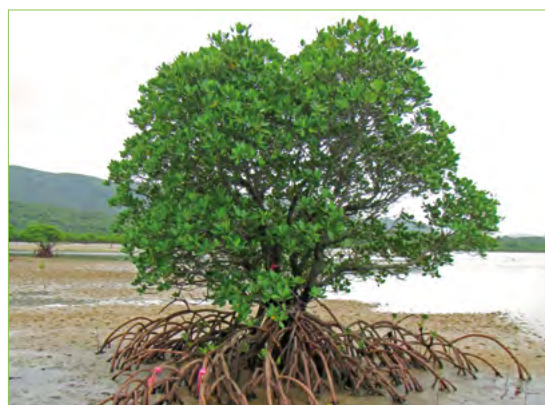
マングローブは、その高い一次生産力を背景に、樹体や泥炭として膨大な量の

海辺の森林「マングローブ」

炭素を固定し、気候変動の緩和に貢献しています。また、津波や高潮による災害が近年頻発していることから、沿岸域の防災・減災インフラとして、潮風や波浪を抑えるためのマングローブを保全し活用するなど、マングローブ生態系の多面的機能に大きな関心が寄せられています。

マングローブは沿岸生態系を育む地理・地形、生態系を形成する動植物、生態系を利用する人間社会、さらには地球レベルの環境変動等と非常に密接な関わりを持った貴重な生態系です。それらをどう保全し、活用していくかは、地球規模での喫緊の課題となっています。

（2023年12月8日開催講座より）



タコ足状の呼吸根（支柱根ともいう）を持つヤエヤマヒルギ
（沖縄県竹富町・西表島）

令和6年度 森林講座のお知らせ

開催講座

10月25日(金曜日)

「夢の技術『ゲノム編集』
—樹木における現状とその利用—」

谷口 亨（森林バイオ研究センター長）

11月7日(木曜日)

「ウッドショックが残したもの
～爪痕と教訓、変化の兆し～」

嶋瀬 拓也（北海道支所）

12月12日(木曜日)

「日本における林野火災の特徴と
予防のための注意点」

玉井 幸治（研究ディレクター）

1月17日(金曜日)

「無花粉スギの苗を
大量に増やすには？」

鶴田 燃海（樹木分子遺伝研究領域）

2月13日(木曜日)

「ヤナギを育てて
カーボンニュートラルを目指す」

原山 尚徳（植物生態研究領域）

会場●多摩森林科学園 森の科学館

時間●13時15分～15時

お申込の受付は各講座開催日の前月の1日から。受付は先着順で、講座開催日の1週間前が締切となります。ご希望の講座名・郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加希望者数をご記入の上、往復はがき、または電子メールでお申し込みください。お申込1通に対し、1講座3名までの受付とさせていただきます。最新情報はホームページをご確認ください。

◆お問い合わせ

〒193-0843 東京都八王子市甘里町1833-81

多摩森林科学園

電話番号：042-661-1121



▲森林講座申込み